

七五三詣

「七」・「五」・「三」という数字は、むかしか

らめでたい数字だと考えられてきました。七五

三の祝が一般に広く行われ始めたのは江戸時代からで、氏神様に七才、

五才、三才の男女子が集まり、おまつりすることから七・五・三の祝と

いうようになりました。

このお祝いは、赤子から幼児に成長していく過程でこれからは氏子として神様に認めていただき、且つ社会からも仲間として認めてもらう意味があります。医学的に見ますと、この年頃は子供の発育上の段階で、三歳で言葉を解し、五才で知恵がつき、七才で歯がはえかわるなどの最も大切な時期に当たります。今までの子供の成長を神様に感謝すると共に、これからの無事をお祈りします。

形式的ではありませんが、七五三を終えて、晴れて一人前として扱われるようになった風習に由来します。(数之年、満年齢のどちらでもかまいません)

三歳(男女) 「髪置き」(かみおき) この日を境に髪を伸ばし始めました。
五歳(男) 「袴着」(はかまぎ) この日から、袴をつけ始めました。
七歳(女) 「帯解き」(おびとぎ) それまで付け紐で着ていた着物から、

帯でしめる着物に替えた。

ご希望の日時をお知らせください。できる限り対応します

